

事 務 連 絡
平成 31 年 3 月 25 日

各都道府県消防防災主管部（局） 御中

消防庁消防・救急課

女性消防吏員の更なる活躍に向けた取組の推進に関する調査の結果について

「女性消防吏員の更なる活躍に向けた取組の推進に関する調査の実施について（依頼）」（平成 30 年 12 月 21 日付け消防庁消防・救急課事務連絡）により依頼させていただいた標記調査の結果を別添のとおり情報提供いたします。

今後の執務上の参考としていただくとともに、各都道府県消防防災主管部（局）におかれましては、貴都道府県内の市町村（消防の事務を処理する一部事務組合等を含む。）に対しましても、情報共有いただきますようお願いいたします。

【担当】

消防・救急課教養係 田村・桑原

電 話 03-5253-7522

E-mail shokuin@soumu.go.jp

女性消防吏員の更なる活躍に向けた取組の推進に関する調査集計結果

(調査基準日：平成30年4月1日現在)

【女性消防吏員に関して】

女性消防吏員の有無 N=728	いる	いない
	519	209
	71.3%	28.7%

(女性消防吏員の有無で「いる」と回答した場合)女性消防吏員の人数 N=519	4,475人
---	--------

(女性消防吏員の有無で「いる」と回答した場合) 最上位の階級 N=519	消防士	消防副士長	消防士長	消防司令補	消防司令	消防司令長	消防監	消防正監	消防司監	消防総監
	121	60	138	141	40	15	3	1	0	0
	23.3%	11.6%	26.6%	27.2%	7.7%	2.9%	0.6%	0.2%	0.0%	0.0%

【女性吏員の数値目標に関して】

数値目標設定の有無 N=728	あり	なし
	685	43
	94.1%	5.9%

(数値目標設定の有無で「なし」と回答した場合) 数値目標設定予定の有無 N=43	あり	なし
	15	28
	34.9%	65.1%

【女性の受験者増に向けての活動】

平成30年4月以降で、女性消防吏員の受験者増加及び採用者数増加に向けて行っている活動(複数選択可) N=1377	新規採用希望者向けインターンシップを消防本部主催で実施	左記のうち、女性専用枠や女性向けインターンシップイベント等を設けて実施	消防機関以外が主催する就職情報イベント(合同説明会、職業体験会等)に参加	消防職員が直接高等学校や大学等を訪問し、就職担当者や学生等に受験を呼びかけ	女性向け採用情報を掲載したホームページや就職活動者向けパンフレットを別途用意	育児休業期間や女性向け施設の整備状況など、福利厚生面等の周知	その他 (下記参照)	行っていない
	101	32	288	334	163	138	131	190
	7.3%	2.3%	20.9%	24.3%	11.8%	10.0%	9.5%	13.8%

●上記その他についての主な事例

(説明会)

消防本部で管内高校の就職担当教員に対する採用説明会を開催した。
消防本部で就職説明会を開催し、女性消防吏員との座談会を実施するなど女性参加者向け内容の充実を図った。
警察、自衛隊、消防の合同で職業説明会を開催した。

(インターンシップ)

中学校、高等学校のインターンシップを積極的に引き受け、消防業務に興味と理解を得られるように実施。
中学生対象の職場体験学習で、女子生徒を積極的に受け入れており、その際に消防のPRを実施している。

(メディア等)

TV(地上デジタル)出演による広報。
地元新聞による広報。
管内のケーブルテレビ放送等の取材に対し、現職の女性消防吏員を積極的に起用することで住民への広報に努めている。
地元FMIによる広報。
駅での広報。
市の公式youtubeチャンネルによる動画広報。
市広報誌に女性消防士の特集記事を掲載し、女性の活躍できる職場であることを周知した。

(ポスター等)

地元の大学の女子学生と共同で、女性消防吏員採用のポスター制作を行っている。

職員採用募集ポスターに女性消防吏員を登用。

消防庁が作成し、配布した女性消防吏員の活躍推進のための広報用ポスターを高等学校、管轄駅構内、市内商業施設、鉄道主要駅、病院、官公庁等の施設にポスター掲示を依頼し、女性消防吏員の活躍推進の広報活動を実施する。

消防本部で男性消防吏員及び女性消防吏員の写真を使用した男女共通の新規採用職員募集ポスターを作成し、掲示している。

女性消防吏員活躍PRビデオの作成。

(SNS)

女性消防吏員を起用した採用PR動画を作成し、消防局のHPやyoutubeに公開。

市の公式ツイッターによる広報。

フェイスブックによる広報。

(女性専用施設)

女性向けの施設の整備を進めている。

(その他)

職員定数条例を改正し、消防職員定数を増員。

採用の案内通知で、「当消防組合では、女性職員の活躍を推進に活力ある職場づくりに努めており、広く優れた人材を求めている」という文言を添えて案内しています。

【女性の受験者増に向けての活動】

・特に女性の採用推進の観点から、効果があったと思われる事例

(説明会)

業務説明会に女性消防吏員を同席させる。
女性限定の就職説明会を開催し、説明会の対応も女性職員で実施したところ、参加者から好評であった。
女性消防吏員がいないため、近隣消防本部の協力により女性消防吏員を派遣していただき就職説明会を実施した。参加した女子高校生からは、「女性も活躍できる仕事だと分かった。女性消防士の生の声が聞けて深く知ることが出来た。」など大変好評であった。
自衛隊主催の『自衛隊・警察・消防合同説明会』に参加：参加者数の確保と消防以外の公安職に興味を持っている学生へも消防職について対話形式で説明ができた。
消防職員が直接高等学校や大学等を訪問し、女性消防吏員の採用推進について説明、受験を呼びかけたことが大変効果的だった。
各種就職ガイダンスや説明会に、実際に現場で活躍している女性職員に同行してもらい、就職希望者の質問に答えるなどして、消防に就職することへの不安の解消・仕事のやりがいをアピールしている。
女性消防吏員の出身校の説明会に派遣する。
育児をしながら仕事をする消防士の紹介をし、参加者に関心を寄せていただけた。
県外等の救急救命士専門学校や公務員専門学校に出向いて、ガイダンスを行ったところ、管内出身者や県内出身者が興味を示していた。
企業説明会や学校訪問等で既存施設に女性専用の設備(仮眠室、トイレ、浴室、洗面所)の改修を進め、職場環境の改善に努めていることを説明した。

(メディア等)

2人の女性消防吏員を採用したことを期に、マスコミ等に取材をしてもらったり、ホームページに掲載することで広報活動にも努めている。

(ポスター等)

職員採用ポスターに女性を起用したことで、出願数が増えた。
イベント周知ちらし等学生向けに作成する。

(SNS)

インターネット上で「女性」「消防吏員」「消防士」のキーワードの文字検索でヒットするようにホームページに「女性消防吏員(消防士)」を記載した。
女性消防職員(交替勤務者)の、1日の勤務の様子を動画で公開(you tube)しています。職業説明会やインターンシップなど、学生と接する機会に流していますが、仕事のイメージが湧きやすいと好評です。

(その他)

大学、専門学校等の就職支援課担当教員に面会し、消防職は女性が活躍できる職種であることを丁寧に説明したことで、女子学生に対する就職アドバイスに役立っていただいた。
進路指導の教諭に直接、女性消防吏員の活躍推進に関するポスターや資料を提示しイメージしていただくとともに、女子生徒へ動機付けを依頼した。
採用試験要項に「女性」を記載し採用試験において女性を採用することを明確に周知した。

【採用に関して】

○平成29年度

採用試験の全体応募者数	72,509	
採用試験の男性応募者数	69,256	95.5%
採用試験の女性応募者数	3,253	4.5%

採用試験で右記の採用枠を設けていましたか。 N=728	救急救命士枠	社会人枠	両方	設けていない
	122	7	2	597

救急救命士枠			社会人枠		
採用試験の全体応募者数	2,056		採用試験の全体応募者数	126	
採用試験の男性応募者数	1,926	93.7%	採用試験の男性応募者数	123	97.6%
採用試験の女性応募者数	130	6.3%	採用試験の女性応募者数	3	2.4%

○平成28年度

採用試験の全体応募者数	77,052	
採用試験の男性応募者数	73,847	95.8%
採用試験の女性応募者数	3,205	4.2%

採用試験で右記の採用枠を設けていましたか。 N=728	救急救命士枠	社会人枠	両方	設けていない
	115	2	3	608

救急救命士枠			社会人枠		
採用試験の全体応募者数	1,898		採用試験の全体応募者数	94	
採用試験の男性応募者数	1,787	94.2%	採用試験の男性応募者数	91	96.8%
採用試験の女性応募者数	111	5.8%	採用試験の女性応募者数	3	3.2%

【女性の活躍情報の「見える化」の推進】

女性割合、女性の採用者数、女性の管理職の割合、 女性活躍推進に向けた取組状況について、 ホームページに掲載するなど「見える化」を行っていますか。 N=728	行っている	全てではないが 行っている	行っていない
	294	146	288
	40.4%	20.1%	39.6%

【女性活躍推進に向けた主な取組例】

(説明会)

職業説明会等で女性活躍推進のパンフレットの配布。
総務課に1名の女性消防吏員を配置し、採用説明会・採用試験等の業務に従事し女性の受験者の増加・採用に向けて取り組んでいる。
職員採用試験の周知及び女性職員を幅広く採用するため、市内の専門学校就職担当者を訪問して、就職説明会の開催及び採用試験の概略について説明した。
当消防組合の女性職員も参加して自衛隊、海上保安庁、警察、消防合同の就職説明会を4回実施した。

(メディア等)

地方新聞に所属女性消防吏員の記事を掲載。
女性活躍推進のホームページを設けて、動画やイベント結果を掲載し、広報を行っている。
特定事業主行動計画で公表しているほか、女性職員の紹介ページをホームページに掲載した。
市のホームページで、先輩女性消防職員からのメッセージ、女性向けパンフレット、女性職員専用施設の掲載を行い、女性活躍推進法に基づき、採用試験における女性職員の採用割合、受験者の女性割合を公表しています。
女性職員が活躍している様子をPRする広報活動(市広報に掲載、ローカルテレビでの特集等)。

(ポスター等)

高校、大学、専門学校へ女性に特化した職員募集チラシ等を設置依頼。

(女性専用施設)

全ての署に女性専用の施設を整備し、当直勤務が可能な状態としている。またホームページにおいても女性職員の活躍といったページを設け、施設の様子や各隊の女性職員活躍している様子について掲載している。
新庁舎への女性専用のトイレ、浴室、仮眠室の整備。
女性向け施設の整備(採用決定後、補正予算で対応)。

(会議・研修等)

女性活躍推進に向けた諸課題の抽出・検討をするため、「女性消防吏員活躍推進プロジェクトチーム」を設置した。
部下のワーク・ライフ・バランスを充実させることを目的として、イクボスを養成するべく管理職を対象に研修を実施する。
女性職員のキャリア形成を支援することを目的として、研修を実施する。
海上自衛隊、海上保安庁、県警察と連携して女性職員活躍推進に係る研修会を開催し、各機関における取組事例や課題等の情報共有を図っている。
自衛隊、海上保安庁、警察、消防の4機関合同による女性職員意見交換会に参加した。
「女性活躍推進検討委員会」を立上げ、管理職及び全女性職員を委員に任命し、「女性職場の働き方改革や問題点」などを話し合う場を設定しました。
年2回、女性職員だけによるミーティングの実施した。

(その他)

マタニティ用の制服を整備した。
時差出勤制度の運用拡大した。
女性職員のための相談窓口の設置(相談員は女性職員)。
2018年度に女性職員の執務環境整備が完成し目標の3署に整備された。空気呼吸器用面体を女性専用で整備している。
男性の育児休業の取得を推進するため、庁内報やポータル掲示板を活用し、先駆事例等を職員向けに紹介し、男性が育児休業を取得しやすい職場風土を醸成する。
従来の毎週水曜日のノー残業デーに加え、毎月第2第4金曜日をワーク・ライフ・バランスデーとして、新たに時間外勤務を原則的に行わない日を設定した。このワーク・ライフ・バランスデーを活用し、男性の家事・育児への参加を促し、男性も家事・育児に積極的に関ることの啓発に取り組む。
育児・介護等の家庭の事情により、やむを得ず離職することがないように、多様な働き方について研究する。
現場活動(火災・救急)における小隊長への起用。
男性職員の意識改革に向けた妻出産休暇等の取得勧奨。
指令課(隔日勤務)等への職域拡大。
これまでに当局の各課と消防署に女性消防吏員を積極的に配置し、多種多様な業務を経験することができるようジョブローテーションを行っている。
女性職員をリスナー職員に指名し、女性同士でしか相談が出来ない悩み事等を出来るような環境づくりを行っている。
育休取得における欠員分を想定した採用実施。
育児のための部分休業取得の定着化。
出初式における1日消防長任命を消防吏員を目指す女子学生の登用。
救急隊、指令課、指揮隊に配置し、さらに、消防隊配置に向けて全女性消防吏員に対する職域拡大に関する意向調査及び消平成25年度の職員採用試験から、試験区分「女性消防士」及び職務概要の「女性消防士については消火、救助業務を除く」を廃止し、試験区分「消防士」として男女ともに受験できることとし、例年2～3人の採用者を確保している。